



越後の暖かい人々と美しい花々に 出会えたことに感謝している。

新潟で35年

大学院医歯学総合研究科教授
花田 晃治



1969年2月に、母校の東京医科歯科大学から新潟大学歯学部附属病院講師として赴任した。35年前に国境の長いとんねるを抜けると、ほんとうに雪国であった。その白さは驚異であり、脅威でもあった。

1977年11月に教授に昇任してからでも27年が経過している。この間にあって、越後の暖かい人々と美しい花々に出会えたことに感謝している。

教授になる直前の1977年8月に「講談社発行、読書人の『本』」を手に入れている。そのなかに、扇谷正造「ああ、これが“私の大学”」というのがあった。

フランスの哲学者であり教授であるアランによる卒業試験の問題は「いま、ここに人生に絶望した一人の売春婦が、わが運命をはかなみ、セーヌ河に身を投げようとしている。君は、なんと行って、彼女の自殺を思いとどまらせるか」であった。歯学部の学生さんにここまで問いつめることはないかもしれないが、このような真摯な気持ちを持ち続ける歯科医に教育するには、と考えたことを思い出している。

筆者がそこから想起したことの一つは、アメリカでのダイヤル・フレンド、すなわちまず話を聞いてあげること、という。これならできそう。もう一つはチャップリンが映画「ライムライト」のなかで聞いてやったことと、そこにある哲学は「人生は、どんなにつらいことがあっても生きるに値する。そしてこの人生を生きてゆくために

は、想像力(希望)と勇気とサムナーだ。矯正治療には健康保険が適用されず現金取引に40年以上携わってきた矯正歯科医は、今回の独立行政法人(ある意味での民営化を含めて)についての最初の理解者であったと思っている。

定年退官にあたって

大学院医歯学総合研究科教授
渡辺 英伸



1979(昭和54)年7月1日九州大学から新潟大学へ転任し、24年間の新潟大学生生活を経て、2004年3月31日で定年退官となります。福岡での14年間、新潟での24年間、計39年間を通じて、多くの人達と一緒に消化器疾患を病理学的側面ばかりでなく、臨床的側面からも分析することができ、感動の連続を共有することができたことに感謝しています。

これら感動は、新潟県で消化器疾患を愛する人々の協力があってこそ、得られました。県内から寄せられた材料は、2004年2月13日現在、胃手術材料が15,285例、腸手術材料が11,052例、肝・胆嚢・膵手術材料が15,351例集積されています。各症例の肉眼記述所見、肉眼写真、切出し肉眼写真、組織診断はすべて個々人がコンピュータ画面上で利用しやすいようになっています。また、パラフィンブロックも簡単に取り出せるように保管されています。このように整理された消化器資料を有する施設は日本に、世界に、ありません。資料の整理・整頓は、教室の職員・医師が24年間という長

退官

平成15年度



整理された消化器資料を有する施設は 日本に、世界に、ありません。 世界の人が閲覧できるようなシステムに 仕上げる必要があります。

い年月、昼夜を分かたずに努力してくれた成果です。

この資料が、新しい世代への宝として、消化器疾患研究の新しい起爆剤として、新潟で、日本で、生かされることを期待しています。そして、これを世界の人が閲覧できるようなシステムに仕上げる必要があります。消化器疾患に関する“新しいうねり”が新潟から発信されると信じています。

退官にあたって

積雪地域災害研究センター教授
小林 俊一



昭和40年から昭和60年まで北海道大学で20年間過ごし、それから今年3月まで新潟大学で19年間を過ごしたことになります。北大でも新大でも私は雪氷学に関する研究所に所属しておりましたので、学部学生との接触は大学で過ごした時間が長かった割には希薄だったと思います。北大では大学院生のほかは学部学生がおりませんでしたので、セミナー以外は講義をしたことがありませんでした。新大では赴任すると直ぐに、教養部と工学部で非常勤講師という名目で講義を担当しました。学生からは教師らしくない教師と評価された記憶があります。私は講義の下手な教師という意味で受け取っておりますが、学生はまじめで講義中に学生のおしゃべりで講義がやりづかったことは一回もありませんでした。学生の評価とは裏腹に私は気持ちよく講義をさせていただきました。私は学生には独学の精神を大切に講義を通

じて説いてきたつもりです。独学の精神を貫くためには、問題の対象を好きになることです。大学を卒業して、色々な問題と直面してその解決に当たるとき、学生時代の独学の修行が役に立つはずで、学生時代に失敗を重ねて試行錯誤した経験こそが社会に出てから貴重な力となります。最後に、私は工学部土木の卒論と大学院自然科学研究科には併任となっておりましたので、幾人かの卒研生と院生との思い出をもつことができたことに深く感謝しております。



学生時代に失敗を重ねて試行錯誤した経験こそが
社会に出てから貴重な力となります。

